

弥陀本願の御詠歌

松 濤 基 作 曲
井 上 八 千 代 振 付

準 備	扇の表を身につけて左側の帯の間にさし右生左生の間隔を約 50 cmあけて正座する	
唱え奉る	静かに合掌する	
弥陀本願の	頭をさげ両手をついて額をつけて礼をし	
御詠歌	体を起して両手を膝の上におき正座に復す	
に	「右生」は右膝をくずして両踵の上に腰をおろし「左生」は左膝をくずして両踵の上に腰をおろす	
歌	左 生	右 生
く	「右生」の手の動きに従って顔を向ける	右手掌を斜左上にして斜左より静かに右斜横
		に移す
		顔は手を追うて右に向ける
さ	左手を斜右から左に移し顔は手に従って左手	右手を右膝にもどしつつ「左生」の手の動き
	の方に移す	に従って顔を左に向ける
も	手はそのままにして顔を右にまわし「右生」	
	と顔を見合す如くする	「左生」と顔を見合す如くする
(休)		
き	体を斜左に向けて立ちながら両手を夫々「も	顔を正面にもどす
	も」につけ右足を左足につける	
	右手掌を下にして斜右後に出し左手掌を下に	体を足と共に斜左に向ける
	して頭上にかざす	
も		
	左手を下しつつ左足僅か前に出し更に右足を	座したまま左まわりして後向きとなり左膝を
	前に出し左膝をつき	立てる
	右手にて扇をめき前に出し左手にて扇の中央	右手にて扇をめき体前に出し(掌上)
(休)	を支え右手にて扇の「要」を上からにぎり	扇の中央を左手
(休)	体前にして両手で一気に扇を開く	できさえ右手にて「要」を下からにぎる

歌	左 生	右 生
か	右手扇を裏がえしつつ斜右にうつす左手は	立ちつつ左足を後にひき扇をもったまま掌を
れ	左膝の上	上にして右に移す左手は左足「もも」にあてる
た	扇を表にかえしつつ	右手掌を下にして斜左前にうつし顔は右手の
る	斜左にうつす	方向に向ける
の	静かに斜右にうつし(扇表上)つつ	右手を静かに斜右にうつす
―		
べ	顔は	顔は
に	手の動きに従う	手の動きに従う
た	静かに立ちつつ左足を右足につけ	左まわりして腰を下しつつ斜左後に向き
だ		
ひ	右手扇を胸にうつす(扇表前)	「左生」の動作を腰を下しながら行う
と	左手袖と共に胸の前で右手に重ねる	
り	顔を斜右上方に向ける	顔を斜左上方に向ける
―		
―		両手で扇を一気に開く
(休)		
ま	正面に向き右足をひいて膝をつき腰を踵の上	正面にむき両手にて扇を目の高さに捧げ
つ	におろして両手で扇を捧げる	
の	立ちつつ扇を帯の高さに下し同時に右手にて	「上手」に同じ
み	扇の上の「華」をつまむ如くする	
の	右足を斜右前に出し(一歩目)同時に腰を踵	斜右後の方向に向き右足を一歩前に出し同時
―	の上に下し右手の華を斜右に散らす如くする	に右手華を右に散す
こ	左足を斜右前に(二歩目)出しつつ立ち上り	右直角の方向に左足を一歩出しつつ腰を踵の
る	同時に両手にて扇を捧げる	上におろし両手で扇を目の高さに捧げる

歌	左 生	右 生
あ	そのままの姿勢で扇は「のみ」に準ずる	そのままの姿勢で手は「上手」に同じ
	右足斜右前に出し(三步目)腰を踵の上にお	右手一步前に出し同時に立ち上る手は
(休)	ろし右手にて華を散す如くする	「上手」に同じ
だ	左足一步前に出し(四歩目)同時に両手にて	左足一步前に出し同時に腰は踵の上におろす
	扇を捧げる	手は「上手」に同じ
	そのままの姿勢で「のみ」に準ずる	右足斜右に一步出して同時に立つ
		手は「上手」に同じ
の	右足斜右前(五歩目)に出す	
	左足一步目(六歩目)に出し正面に向き両手	左足斜右前一步出し(最初の方角)同時に腰
	を扇を捧げる	を下す手は「上手」に同じ
ほ	静かに正座しつつ	正座して
	扇を	扇を
	膝の前におく(表上)	膝の前におく(表上)
(休)		
ん	静かに合掌しつつ	以下 「んがん」は「左生」に同じ
	右手にて扇の要をもち体前に上げる	
	(左手は膝の上)	
が	扇を左にまわし左手をそえて扇をとじる	
	右手「要」をもち左手にて支えて	

歌	左 生	右 生
ん	頭を下げる	
(休)		
(休)		

扇をもったまま頭を上げ正座の姿になり右手扇の要を下にさげ左手扇の中央に移し右手にて帯の間に扇をさして合掌する

ポイント注意

- 【くーー】 左生の顔の動き。右生の手の動きに連れて、顔を動かします。
- 【もーー】 扇をぬく動作。
- 【まつのみ】 右手の動作。右手の指の動作は扇の上の華を摘むようにしてください。
- 【だーー】 座る順番。先に左生が座り始め、続いて右生が座り、終わりは両者一緒になります。

本願調 舞の図解

